

平成 28 年 8 月

平成 28 年 8 月 1 日～31 日の間、4 名の有識者等と面会いたしました。主な面会先及び内容は、以下のとおりです。

(1) 県人会メンバーからジョージワシントン大学沖縄コレクションへ図書寄贈 (25 日)



ジョージワシントン大学沖縄コレクションへ、ワシントン DC 沖縄会の前会長である真栄城さまから図書の寄贈が行なわれました。

貴重な書籍も含まれているなど大学側も喜んでおり、真栄城前会長にはジョージワシントン大学から、お礼状が郵送されます。

県ワシントン事務所も当初より真栄城さまから相談を受け、大学側との調整や図書の運搬など支援をさせていただきました。引き続き、沖縄コレクションが県系アメリカ人をはじめ米国市民に広く親しまれ発展していくよう取り組みを進めて参ります。

(2) 報道関係者との面談 (24 日)

在ワシントンの報道関係者と面談を行いました。

国務省の人事等について、見解をいただきました。

平成 28 年 7 月

平成 28 年 7 月 1 日～31 日の間、15 名の有識者等と面会いたしました。主な面会先及び内容は、以下のとおりです。

(1) シンクタンク研究者との面談 (28 日)

CSIS は、日本の政府機関や日系企業ともつながりが強く、客員研究員といった形で職員、社員を受け入れております。

常時 10 名程度の日本人研究員を受け入れており、今般、公安調査庁より出向中の茂木客員研究員に紹介を依頼し、こうした CSIS に在籍中である 6 名の研究員と面会し、ネットワークの拡大を図りました。

(2) ジョージワシントン大学図書館 沖縄コレクションとのスタッフミーティング (26 日)



研修のため県ワシントン事務所を訪問中であった県文化振興課の仲間主任を同行し、沖縄コレクションのスタッフとミーティングを行いました。

ゼルジェック部長、佐藤司書から順調に蔵書が増えつつあり、図書館内の沖縄コレクションのエリアを拡張する予定であること等の説明がありました。

また、沖縄コレクションの責任者であるマイク望月教授の指示により、県ワシントン事務所との連携のもと、カンファレンスの開催、Web サイトの構築等を、蔵書のカテゴライズ(分類登録)作業と平行して進める予定であるとの報告を受けました。

ジョージワシントン大学図書館に日本語書籍の専門的なカテゴライズが出来る司書が佐藤司書一人しかいないため大きな負担となっている様子でしたが、ご本人は大変やり甲斐を感じているとのことでした。

(3) 世界のウチナーンチュ大会関連 (26 日)

IACE トラベル・ワシントン DC 支店を訪問し、同支店における沖縄特設コーナー設置に関するお礼と、来る 10 月に予定されている世界のウチナーンチュ大会へのワシントン近郊からの参加申込者が現時点で前回は上回っていること等を報告し、引き続き協力をお願いいたしました。

(4) ジョージワシントン大学 マイク望月教授との意見交換 (25 日)

マイク望月教授と昨年ジョージワシントン大学図書館に設置した沖縄コレクションの発展育成などについて意見交換を行いました。

望月教授からは、アメリカにおける沖縄研究をいかに発展させていくか、沖縄コレクションをどう育てていくか、などについてアジェンダを設定したカンファレンスを行うこと、また、連邦議会図書館などワシントン DC 及びメリーランド大学図書館など近郊の図書館等との連携などについて取り組みの提案がありました。

(5) コロンビア大学の学生、コーエン研究員との面会 (22 日)



コロンビア大学のコーエン研究員が県ワシントン事務所を訪れ意見交換を行いました。コーエン研究員は来る 8 月に約一ヶ月間、調査研究のため沖縄に滞在する予定です。

こうしたアメリカで沖縄研究の専門家を目指す若手研究者の育成支援は、今後の沖縄の課題解決のためにも極めて重要と考えていることから、県ワシントン事務所としてもバックアップすることとしています。

(6) シンクタンク研究者との面談 (18 日)

ウィルソンセンターの道下客員研究員と面談を行いました。

米国の安全保障や、尖閣諸島問題等について意見交換を行いました。

(7) 報道関係者との面談 (7日)

大統領選挙を担当している在ワシントンの報道関係者と面談を行いました。

大詰めを迎えつつある米大統領選について、今後の展開予想と入れ替わりが激しい重要人物について見解を伺いました。